

くいった)

五、関わらないことで親たち

にも自由な時間ができ、親たちも勉強会など親睦ができた。

結果として翌年には、会員

がガラツと様変わりをした。

会員層が若くなり、増員した。

キャンプ参加者に会員以外を

対象としたことが良かった。

今、各育成会は、会員の若返りと会員減に悩んでいることと思います。

この長野の取り組みを聞きながら、大都会の私たちが即取り入れることは困難かもしれないが、育成会活動の原点に返ることを試みていいかなと思います。事業体、運動体を併せ持つ育成会だからこそできることがあるのではないかなと思います。

今回、久々に大会に出て各育成会の取り組みの報告は、勉強になりました。一人でも多くの皆さんに全国大会に参加して頂き、この雰囲気を感じ、さらなる育成会活動

の必要性を実感して頂きたいなあと思いました。

⑤第四分科会 くらしあい

(地域・ホーム)に参加して

東成区支部

(ふりーす・ペースSUN)

藤原 鈴子

去る、十一月十四、十五日滋賀県大津市にて行われた全日本手をつなぐ育成会全国大会第四分科会「くらしあい(地域・ホーム)」に参加し、その

ご報告をさせていただきます。講演前に糸賀一雄先生が戦争孤児・障害児を対象に「近

江学園」を設立、「教育・生活・自立」の理念での地域で共に

生き、どんな子供にも生きる権利・発達保障の権利がある

との想いで運営された学園の胸熱くなるビデオが流されました。「この子らを世の光に」

の言葉を残されましたが今も生きているのではないでしうか。

弁護士 土井裕明氏からの

基調講演「知的障がいと地域

での暮らし」では、まず滋賀

県で起きたサングループ事件

後の取り組みが述べられました。

知的障がい者が地域で暮らす

には「お金、生活の場所、仕事、日常生活支援」が必要。

それらの支援の中に年金取得

悪徳商法被害、職場・障がい

者間での権利侵害、地域での

事件・トラブル等があり、日

常的に、支援を途切れさせない

体制が必要、多様な社会資源

を活用して支援のネットワーク

の充実を図る事が不可欠

との講演でした。

東大阪市健康福祉局 田村

敦司氏からの「ライフステー

ジにあつた児者一貫した支援

をめざして」の講演では、特

に自立支援協議会の役割や仕

組みを地域の様々な支援団体

及び行政学校等で構成し連携

の重要性を認識し、地域生活

移行や触法障害者の権利擁護

にも支援されていることが述

べられました。

西宮市社会福祉協議会 障

害者生活支援グループ「青葉

園」を長年支援されている清

水明彦氏からは、言葉でのコ

ミュニケーションが難しい人

達の地域生活を支える為、「本

人の計画」作りから自立プロ

グラムに取組み、地域自立生

活支援構造として展開、多く

の支援組織をネットワークし

「支援の輪」として本人中心

に稼動していくように関与し

続けると。今後も「本人中心

主義」「本人計画主義」の実践

の実体化を図り、地域を巻き

込んで展開し一人一人の存在

の社会的価値化を目指すこと

を、熱い！熱い！想いで

語られました。

知的障害を持つ渡部英子さ

んは、「掃除屋ブリ」での大津

市の公衆トイレ掃除の仕事に

より月額十万円の給与を得、

ご主人も就労して二人で約二

十二万円の給与と年金約十三万円の収入で生活している。

今まで色々な事情や借金(親

の借金、家賃未払い、サラ金)

も就業センターの支援でそれ

らも全部片付き、今後の夢は

貯金をして沖縄旅行に行く事

ですと話されました。適切な

支援で豊かな地域生活を営ん

でおられる事を嬉しく思いま

した。

東近江 働き・暮らし応援セ

ンターTe k i t o・支援ワ

ーカー 野々村光子氏から【ち

ようどいい働き方】というこ

とで生活・就労・全てはそ

の人の二十四時間の中に存在

するもの。ちょうどであるラ

イフスタイルがゆとりを持つ

てその人らしく暮らせる。生

活基盤の確立から始まる就労

準備、準備は教育現場から始

める。「働きたい」の奥にある

課題を見つめた就労支援。そ

して障害のある方が地域の色

んな場所へ出入りする事が当

たり前の地域に、この想いは

即ち地域のネットワークが重要ですと、とてもバイタリテ